

## しかし、わたしは言うておく

マタイによる福音 5:38-48

「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。だれかが、一ミリオン行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。

あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるか。異邦人ですえ、同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」

### 説教

「しかし、わたしは言うておく」につづくイエスの言葉は反対命題と呼ばれています。

その1 「腹を立てるな」 21-26

その2 「姦淫するな」 29-30

その3 「離縁するな」 31-32

その4 「誓うな」 33-37

その5 「復讐するな」 38-42

## その6「敵を愛せ」43-48

腹をたてるだけでも殺したのと同じ罪となる、姦淫はもちろんのこと、みだらな思いをもって見ただけでも罪だ、離婚した男は女に姦淫を強要したことになる、誓うということは自分を権威づけることと同じだ、誓ってはならない。弱い立場の人からの要求に背を向けるな。自分と違う立場の人たちを敵扱いするな、大切にしなさい。イエスは八福の教えににつづいて、お勧めできないこと、やってはダメなことを「しかし、わたしは言うておく」と前置きにして6つのアンチテーゼとして山の上から説教しました。でも、この反対命題（アンチテーゼ）はことばどおりに実行するとなかなか窮屈で、やりようによってはウソじゃないの、偽善じゃない、となることもあります。

**心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。** マタイ 5:3  
新共同訳

**心底（しんそこ）貧しい人たちは、神からの力がある。天の国はその人たちのものである。** 本田哲郎訳（新世社）

八福のなかで一番最初にでてくる教えを新共同訳と本田哲郎神父訳を比べてみました。「心」が「心底」、「幸い」が「神からの力」と違う言葉で訳されています。ここでちょっといたずらして、本田訳を反対命題風にひっくり返してみます。

頭のとっぺんから足のさきまで豊かな人たちは、神からの力には縁がない。地の底がその人たちの住処（すみか）である。

自分自身の力で豊かになった、神頼みなんてしていないんだ。なにか文句ある？金持ち、成功者と呼ばれている人たちにあてはまりそうな感じです。しかし「神からの力」に縁のない人たちの行く末は住処は地の底、地獄だよ、

となります。

「自分を捨てる」これはイエスの教えの大きなポイントの一つです。

自分を自分として成り立たせているのは自分自身ではない、そこを悟って

「自分を捨てる」ところに救いはあり「神からの力」が働く、自分を捨てるという意味はそこにあります。逆にいえば、神の力が働かなければ心底（しんそこ）貧しいと自覚することもできません。

「しかし、わたしは言うておく」につづくイエスのことばの一つひとつをわたしたちが自分をむなしくして受け入れることができるように導いてください。

-----